



イルカ通信

隔月1回発行
バックナンバーは無料でダウンロードできます
(下記参照)

「カズハゴンドウのストランディング」

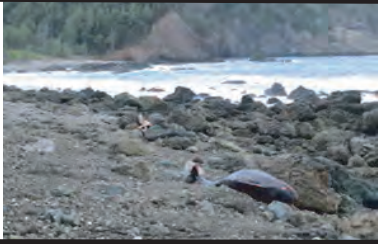
イルカ通信でも何度かお伝えしていますが、鯨類が海岸などに座礁したり、死体が漂着したりすることを「ストランディング」と呼びます。

昨年12月29日午前、この日はおがさわら丸の入出港日ということもあり、島内が慌ただしくなる中、父島洲崎の海岸に鯨類が漂着しているとの情報がOWAに寄せられました。

職員が現場へ駆けつけると、海岸には小型の鯨類が横たわっていました。その場で外部形態の観察や写真撮影を行い、歯の本数が上下ともに20本以上あったことから、カズハゴンドウと識別しました。また体長は252cmで、泌乳していたことから、メスの成熟個体であることが分かりました。

現場では食べていた餌を調べるための胃内容物を採集し、中からは魚やイカを食べていた証拠となるものが数多く出てきました。今後、詳細な分析をしたいと考えています。

2013年に小笠原で報告されたストランディングの事例は4件で、過去最大の発生件数となりました。ストランディングの原因は様々な説がありつつも、未だに多くの謎を残しており、研究のための情報収集が欠かせません。情報を寄せて下さった皆様、ありがとうございました。今後も漂着した鯨類を発見した際にはOWAまでご連絡ください。



1. 父島洲崎の海岸に漂着したカズハゴンドウ

2. 近くで大きな傷や体の形態などを隅々までチェック

3. カズハゴンドウから取り出した胃袋

4. 胃の内容物からは、魚やイカを食べていた証拠がたくさん

カズハゴンドウって?

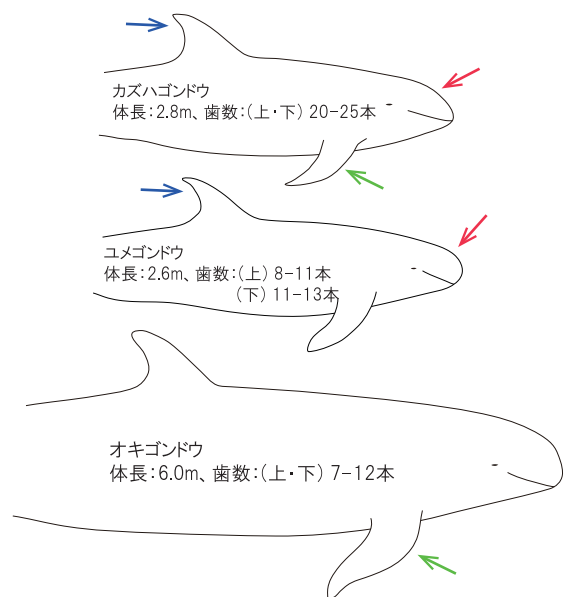
カズハゴンドウという和名は、〇〇ゴンドウと名前のつく種類の中でも歯の数が多いことに由来し、世界中の熱帯から亜熱帯の外洋域に分布する種類です。通常は100~500頭の群れを作り、最大で2000頭以上の群れを作ることもあるようです。またサラワクイルカと混群をつくることも確認されています。

図鑑などを見ると、カズハゴンドウのページには、オキゴンドウやユメゴンドウと混同しやすいと記載しています。まずは右の絵をご覧ください。オキゴンドウはカズハゴンドウより体長が大きく、胸ビレの前縁の膨らみが大きな特徴です。

ユメゴンドウは、背ビレの先端がカズハゴンドウのものより尖っていて、頭の先端が丸いことなどから識別します。洋上で見分けるのは中々難しいですが、これらの鯨類と思われる種類が漂着したら、歯の数も識別の手がかりとなります。

<参考文献>

Jefferson, T. A., M. A. Webber and R. L. Pitman. 2008. Marine Mammals of the world: A comprehensive guide to their identification. Academic Press, Burlington, MA.



カズハゴンドウと混同しやすい2種の比較

※体長は最大体長、歯数は片側の本数を記載